

姫路城100日ぶり全面公開

支えられてきた客足はまだ回復が速く、市民からは「雰囲気寂しい」との受け止めも聞かれた。(井上太郎、安藤真子)

安心優先にぎわい途上

初日、入城者の混雑なく

「壮大で圧倒的」。愛知 田充弘さん(64)は、初めて県豊橋市から車で訪れた姫路城の天守に登り、目

「人少なく城もまだ笑っていないみたい」

初めて姫路城観光に訪れたドイツ人女性。長期の在勤を終えて間もなく帰国するといひ、念願だった天守の見学がきりぎりりかかった。いずれも姫路市本町(撮影・小林良多)



を輝かせた。「広いなあ」 順路に沿って歩いた。と感嘆する宝塚市の会社員 地元の住民も再開を喜んだ。八木浩さん(58)は「混んでいたら違う印象だったかも」と満足そうだった。「あつちも閉まった、この日、午前8時半の開城と同時に入ったのは7人。その後行列は見られず、主に個人か2人組が距離を取りつつ、一方通行の



③周辺の土産物店や飲食店も次々と営業を再開。にぎわい復活を待つ
④再び来城者を迎えた姫路城の天守。久しぶりに床板がきしむ音が響いた

い」と複雑そうに話した。下層階や入城口で止めて密兵庫県内ではこの1カ月度も調整する。近々新規感染者が出ていな 姫路城管理事務所の春井浩和所長(49)は「まずは安心が続く。姫路城の天守閣では心して見学してもらえよう。1時間あたり400人の入城制限に加え、最上階は常

インバウンド頼み脱却

近隣から観光誘致へ

春の書き入れ時をコロナ禍に見舞われた姫路城周辺の観光関係者らは、屋台骨の復活に期待を寄せるが、難題も横たわる。

3~5月の入城者数は、前年比95%減の約3万3600人。総入城者の4分の1を占めたインバウンド(訪日外国人客)に頼るのも、当面は難しい状況となっている。

宿泊施設の「供給過多」も懸念材料だ。「平成の大修理」が完了した2015年以降、市中心部ではインバウンドの増加を背景にホテルの建設ラッシュが起った。しかし、姫路旅館ホテル生活衛生同業組合の原総組合長(51)は「元々そこまで大きくなかった市場が、コロナ禍で『インバウンドバブル』前に縮小してしまった」と危惧する。

姫路市は宿泊業支援のため、上限100万円の給付金を創設。宿泊代の割引サービスや、土産店などで使える電子クーポンの配信で消費も喚起する方針だ。石川博樹観光文化部長は「感染の状況を見つつ、まずは京阪神や近隣県からの観光誘致に取り組み」と話す。原組合長も「大事なところは観光に行っていないんだ」というムードづくり。感染防止策を徹底した上で、以前のように国内観光の需要喚起を目指していくしかない」と前を向いた。(井沢泰斗)

6月16日 神戸新聞

近々お城が笑っているように見えると良いですね。